

令和7年度

インターンシップ

総括



実施地域

福知山市・綾部市・舞鶴市・丹波市市島町

京都府立工業高等学校

目 次

1	インターンシップ推進地域及び本校の概要	・・・ 1
2	インターンシップのテーマ	・・・ 2
3	インターンシップ支援地域連携協議会の組織及び活動状況	・・・ 3
4	インターンシップの実施	・・・ 4
5	アンケート結果	・・・ 5

Ⅰ インターンシップ推進地域及び本校の概要

(1) 推進地域の概要

ア 地域名及び人口（令和8年1月現在）

福知山市	73,891 人
綾部市	29,727 人
舞鶴市	73,705 人
丹波市市島地域	7,879 人

イ 地域の特徴（産業、地域経済等）

福知山市は平成18年に大江町・三和町・夜久野町の3町を編入合併して現在に至る。福知山市・綾部市・舞鶴市は、京都府北部の経済・文化の中心地であり、交通アクセス面でも、京阪神方面へは舞鶴若狭自動車道が通じ、日本海側には北海道小樽港をはじめ海外とも定期航路を持つ舞鶴港があり、産業拠点としての立地条件に恵まれた地域である。

京都府立工業高等学校は福知山市の長田野工業団地に隣接し、他にも綾部工業団地、アネックス京都三和、舞鶴の工業団地など多くの企業が立地する地域にある。

(2) 本校の概要

ア 沿革

昭和38年度に京都府立石原（いさ）高等学校として開校し、設置学科は機械工学科、原動機工学科、電気工学科、電子工学科の4学科であったが、昭和51年度に設置学科の名称を機械科、原動機科、電気科、電子科に変更した。

平成2年度に京都府立工業高等学校に校名変更を行うとともに、機械プランニング科、生産システム科、電気エネルギー科、電子コミュニケーション科、情報システム科の5学科に改編した。そして、平成30年度入学生からは、今後の工業技術の進展に対応できる技術者を育成するため、機械テクノロジー科、ロボット技術科、電気テクノロジー科、環境デザイン科、情報テクノロジー科の5学科に改編した。

教育目標

- 1 個性の伸長と能力の開発につとめ、豊かな人間性を培い、国家及び社会の有為な形成者として必要な教養を身につけた人間を育成する。

ウ 学級数及び在籍生徒数（全学年 15 学級 490 名、令和 7 年 12 月現在）

学 科	機 械	ロ ボ ッ ト	電 気	環 境	情 報	計
1 年（5 学級）	34	35	35	29	33	166
2 年（5 学級）	34	31	35	31	36	167
3 年（5 学級）	34	33	30	26	34	157
合 計	102	99	100	86	103	490

機械；機械テクノロジー科、ロボット；ロボット技術科、電気；電気テクノロジー科
環境；環境デザイン科、情報；情報テクノロジー科

2 インターンシップのテーマ

「地域とともに発展する学校づくりをめざして」

3 インターンシップ支援地域連携協議会の組織及び活動状況

(1) 組織

令和7年度インターンシップ支援地域連携協議会

所属	役職名	氏名
一般社団法人 長田野工業センター	専務理事	嵯峨根 正和
一般社団法人 綾部工業団地振興センター	専務理事	鍋師 利悟
福知山商工会議所	事務局長	大内 淳
綾部商工会議所	事務局長	芦谷 匡哲
舞鶴商工会議所	中小企業相談所 相談所長	桐村 達也
福知山市商工会	経営支援員	月見 圭晴
京都府商工労働観光部雇用推進課 北京都ジョブパーク	副センター長	伴田 邦雄
綾部市役所農林商工部	次長 兼 商工労政課長	荻野 達徳
福知山市産業政策部	産業観光課長	大江 秀也
京都府中丹教育局	指導主事	倉内 邦行
福知山市教育委員会	事務局次長兼学校教育課長	間島 哲哉
綾部市教育委員会	教育部 学校教育課 課長	斉藤 さおり
京都府立工業高等学校	P T A 会長	中野 万美子
京都府立工業高等学校	校長	野村 善之

事務局

京都府立工業高等学校	副校長	宮部 和真
京都府立工業高等学校	副校長	山本 雄一
京都府立工業高等学校	事務長	猪岡 奈留美
京都府立工業高等学校	進路指導部長	田中 康嗣
京都府立工業高等学校	進路指導部	榎原 香
京都府立工業高等学校	工業科	飯野 敬太
京都府立工業高等学校	保健体育科	兵藤 友哉
京都府立工業高等学校	国語科	佐竹 桃子

(2) 活動状況

令和7年5月21日(水) 第1回インターンシップ支援地域連携協議会
令和7年度インターンシップの実施計画について
令和7年度受入事業所の状況について
令和8年2月6日(金) 第2回インターンシップ支援地域連携協議会
令和7年度インターンシップ事業報告
令和8年度インターンシップについて
情報交換 等

4 インターンシップの実施

(1) 事前準備

ア 依頼事業所の確認 令和7年3月
イ 事業所への依頼 令和7年4月

(2) 実施要項

ア 目的

- 1 勤労観・職業観の育成と職業適性や将来設計について考えさせる機会とし、職業選択能力を養わせる。
- 2 事業所等の現場において実践的な知識や技術・技能に触れさせ、学校における学習への理解の深化、意欲の喚起を図る。
- 3 生徒が教職員や保護者以外の大人と接する機会を通じて、異世代とのコミュニケーション能力の向上を図る。
- 4 就業体験を通じて、地域の地域事業所との相互理解を深めさせ、地域社会に貢献できる人材を育成する。

イ 内容 生徒が自らの学習内容や将来の進路に関連した就業体験を行う。
京都府内では最大規模の実施で、27年目となる。

ウ 実施期日 令和7年10月28日(火) ~ 30日(木)

エ 実施日数 原則3日間

オ 実習時間 8:30 ~ 17:00

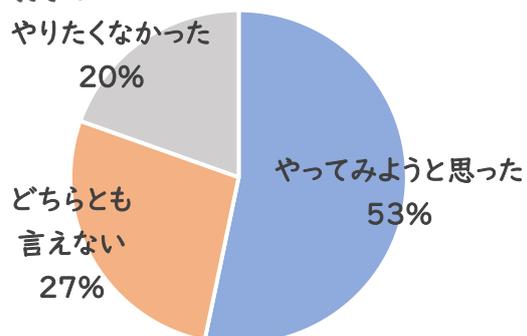
カ 対象生徒 2年生 167人

キ 協力事業所数 福知山市48社、綾部市14社、舞鶴市5社、
丹波市市島町3社、宮津市1社
綾部市役所関係3カ所、福知山市役所関係6カ所
合計80事業所

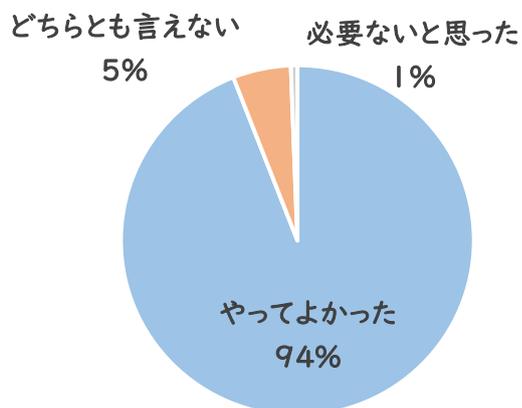
5 アンケート結果

(1) インターンシップを体験した2年生のアンケート結果

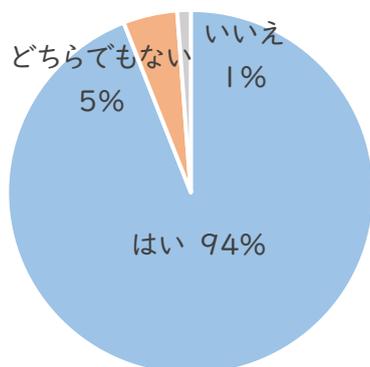
1. インターンシップに行く前の気持ち



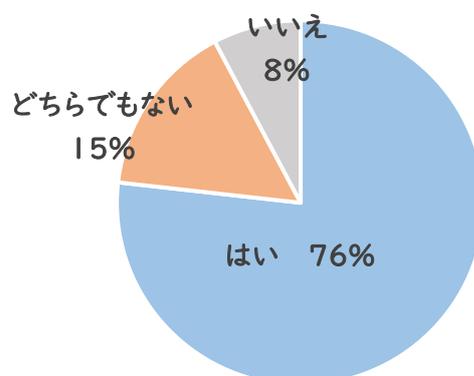
2. インターンシップを終えてみての気持ち



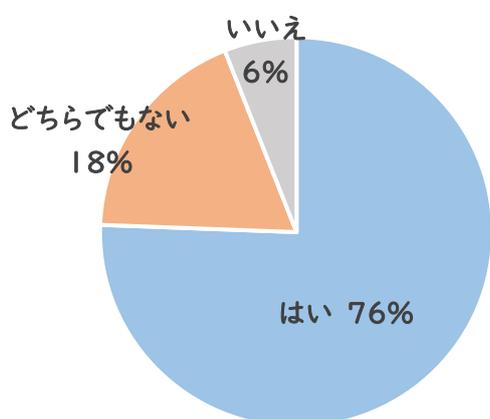
3. 職場の方々とコミュニケーションはとれましたか



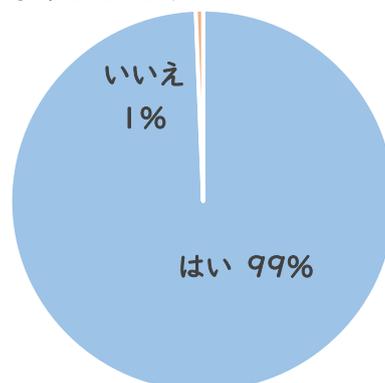
4. 専門分野の知識が豊かになりましたか



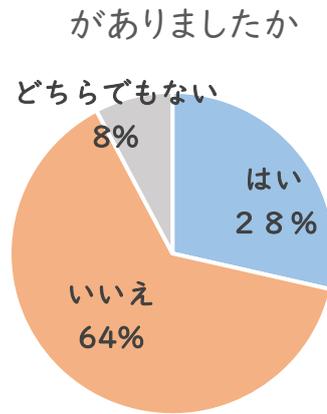
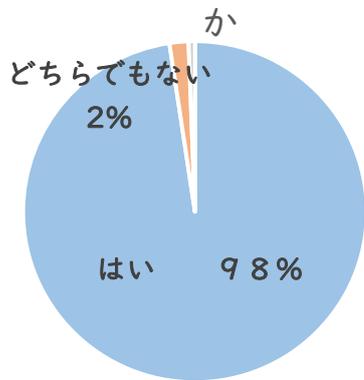
5. 進路選択の参考になりましたか



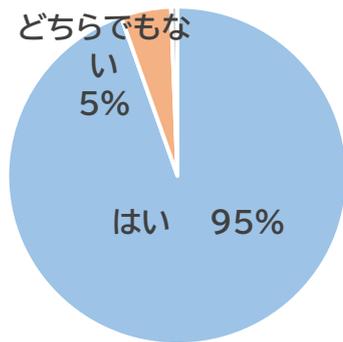
6. 働くことについて考える機会となりましたか



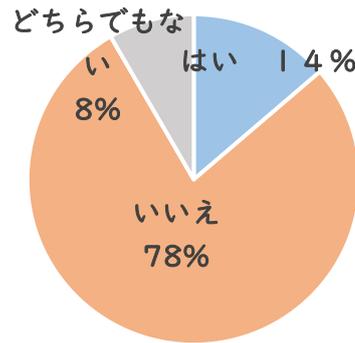
7. 充実した体験ができました 8. 体験中に体力的に「辛かったこと」



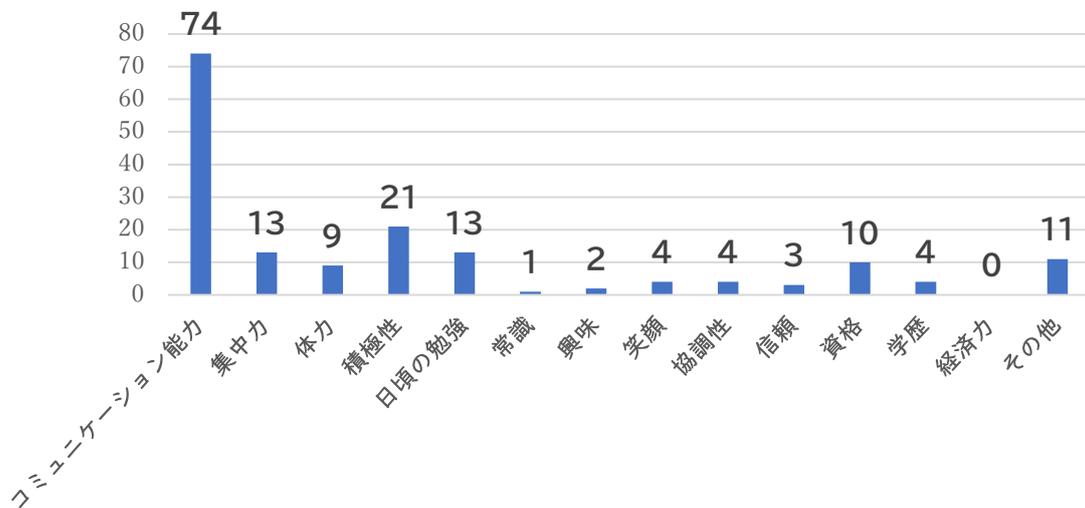
9. 積極的に取り組むことができましたか



10. 体験中に精神的に「辛かったこと」がありましたか

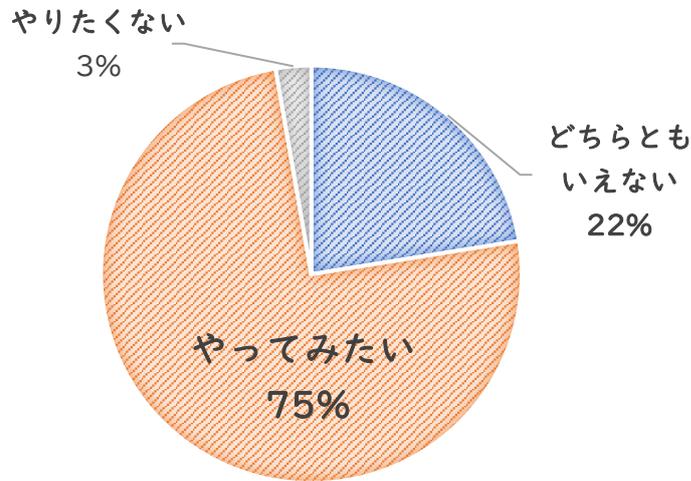


11. インターンシップに参加して、自分にとって何が必要だと感じましたか

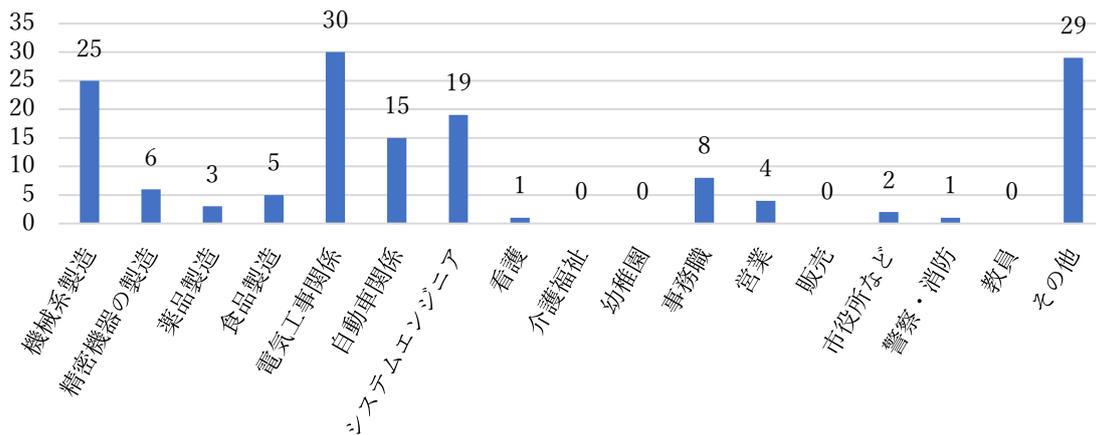


(2) 来年度インターンシップを控える1年生のアンケート結果

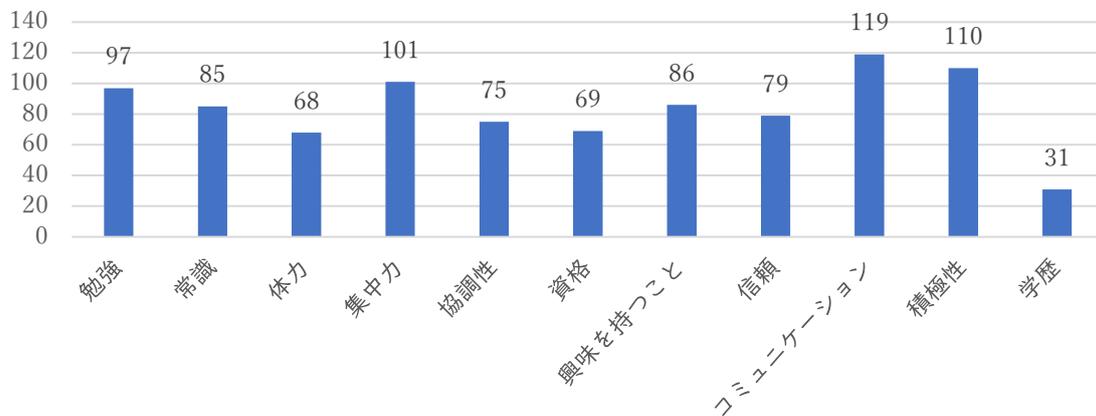
1. インターンシップを体験することに対して



2. 将来はどの職業を考えていますか



3. インターンシップをするために、これから自分に何が必要だと感じましたか。



(3) 事業所様からの所見

- 前向きな姿勢で業務に取り組み、指示事項を的確に理解して実行していました。
- 分からない点は積極的に質問し、学ぼうとする姿勢が印象的でした。
- 例年のように、言葉数少なくおとなしいながら、素直でマジメな生徒さんだった印象です。
- 様々な体験をされて大変だったと思いますが、指導員の話をよく聞いて、真摯に作業に取り組んでいました。
- 慣れない環境で緊張していたのか、控えめな印象でしたが、自発的な発言があるにより良いコミュニケーションができると思います。
- あまり関心のない研修では、少し注意が落ちていたところもありました。もっと、いろいろなことに興味をもってみると楽しいと思います。
- 話を耳で聞くだけでは取り入れる情報量が限られているため、メモを持参して大事だと思う箇所をメモに記していただくと良いと思いました。
- みなさん実習も熱心に意欲溢れて、こちらで教えていたメンバーも教えることの喜びを受けました。
- まだ大人の中に入っていく準備ができていないと感じました。
- 指示されたことに対して、正確に真面目に取り組めていました。緊張していたため大人しかだったので、返事の声が大きければ更に良かった。
- 強い関心を示し、わからない点は自ら質問して理解を深めようとする姿勢が印象的でした。また、周囲とのコミュニケーションを大切にし、作業を進めるなど、協調性にも優れていました。
- 各職場で半日ずつ体験をしていただきましたが、しっかり受け答えができてまじめに取り組み、とても良い印象だと各職場から評価をいただいています。
- 積極的な学びの姿勢を見せていただき、我々としてもパワーをいただくことができました。帰りの際にはへとへとに疲れた姿で、全力で取り組まれたのだと思いました。

(4) 成果と課題

インターンシップ支援地域連携協議会を中心に、商工会議所、行政機関、工業団地等の積極的な御協力のもと、今年度も福知山市、綾部市、舞鶴市、丹波市、宮津市の事業所に受け入れていただき、計80事業所様の御協力により無事にインターンシップを実施することができました。

今回のインターンシップでも、多くの生徒から「コミュニケーションの大切さ」が

多く書かれていました。社員の方々が年齢に関係なく気さくに声を掛け合い、協力しながら仕事を進める姿は、多くの生徒にとって特に印象深い学びとなりました。

また、ものづくりの現場では、豊富な機械設備や高度な加工技術に触れ、0.1mm単位の精度管理や安全確認の徹底など、学校では経験できない責任の重さを実感したという声が多くありました。さらに、どの企業でも「報・連・相」や挨拶、礼儀、身だしなみなど、社会人としての基本を丁寧にご指導いただき、生徒は自分の成長すべき点に気づくことができたインターンシップとなりました。三日間という短い期間であっても、働くことの大変さややりがいを知り、将来の進路を考える貴重な機会となりました。

また、将来的にどのような仕事をしたいのか、自分がどのような業種や職種に向いているのかについて、具体的なビジョンを持つことができました。特に、「意外にも電気回路の配線が楽しく、自分に向いているのではないか」と職業適性を実感した生徒がいたことは大きな成果でした。

「仕事の現場は1人でやるのではなく、チームで動くので連携が大事だと分かりました。」など、職業観を深めることができた生徒もいました。

実際の職場での雰囲気や業務を体験し、普段目にすることのない機械や作業に触れることで、業界や企業への理解が深まりました。現場だからこそ分かる「仕事の大変さ」や「責任の伴う仕事の重要性」を理解し、働く意義について深く考える機会となりました。

一方で、生徒が希望と異なる職種であっても前向きに学べるよう、職業観を高めるための事前指導を強化する必要性を感じています。また、企業研究やメモの取り方などの事前学習についても、全員が実践できるよう、より分かりやすい指導が必要であると考えています。

今年度は10月の学級閉鎖により約40名が実習に参加できず、12月に1日のみ実施しましたが、体調管理も含めた意識付けが今後の課題であると感じました。

来年度就職や進学を控える生徒にとって、今回のインターンシップは社会経験を積む貴重な機会となり、進路決定の指標の一つとすることもできました。生徒たちは、働くとはどういうことなのか、仕事選びをする上で何を大切にすべきかなど、多くのことを学ぶことができました。今回の成果と課題を踏まえ、社会で生きていく力を身に付けられるよう、今後の学校生活の中でも継続して指導していきたいと考えております。